

第2回白馬村地域公共交通検討委員会 議事録

日 時	平成30年9月27日(木) 午後1時30分～	
開催場所	白馬村役場 201.202 会議室	
委員長	藤本 元太	白馬村副村長
出席委員	高瀬 達夫 (アドバイザー) 信州大学水環境・土木工学科 准教授 速水 政文 公募委員 田代 雅子 公募委員 鈴木 均 走れ村バスの会 岩瀬 隆 走れ村バスの会 福島 洋次郎 一般財団法人白馬村観光局事務局長 松澤 孝行 社会福祉法人白馬村社会福祉協議会事務局長 高梨 光 一般社団法人 HAKUBVALLEY 索道事業者プロモーションボード代表 津山 健次 アルピコ交通株式会社白馬営業所長 風間 雅裕 白馬観光タクシー株式会社代表取締役 上條 良民 アルプス第一交通株式会社代表取締役 薄井 浩章 アルピコタクシー株式会社大町支社長 井藤 太亮 国土交通省北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長 高澤 陽 国土交通量北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長補佐 宮本 卓 国土交通省北陸信越運輸局長野運輸局首席運輸企画専門官 横山 秋一 白馬村役場観光課課長 松澤 忠明 白馬村役場健康福祉課課長 藤巻 孝之 (オブザーバー) 大町市役所総務部情報交通課課長 ※敬称略・順不同	
欠席者	大日方 悦夫 東旅客鉄道株式会社白馬駅長 栗田 祐二 一般社団法人大北医師会北部理事 遠藤 孝 有限会社白馬交通代表取締役社長 柳沢 剛 長野県北アルプス地域振興局企画振興課課長 横澤 勲 小谷村役場観光振興課課長	
事務局	吉田 久夫 白馬村総務課長 矢口 浩樹 白馬村総務課政策企画係長 渡邊 宏太 白馬村総務課政策企画係	
会議次第	1. 委員長あいさつ 2. 会議事項 (1) アンケート調査について【資料1】 (2) 白馬村地域公共交通の問題点、課題について【資料2、3】 (3) その他 3. その他 閉会	
配布資料	○資料1：アンケート調査結果について ○資料2：地域公共交通の問題・課題について ○資料3：白馬村地域公共交通網形成計画 中間報告書(詳細資料)	

発 言 者	発 言 内 容 等
委 員 長	<p>1. 委員長あいさつ</p> <p>2. 会議事項</p> <p>(1) アンケート調査について【資料1】</p> <p>(2) 白馬村地域公共交通の問題点、課題について【資料2、3】</p> <p>(3) その他</p> <p>(事務局より資料1から3の説明)</p> <p>(1) アンケート調査について、(2) 白馬村の都市概況と問題点について意見等ある方はいますか。</p>
高瀬アドバイザー	<p>・資料2 1ページ目について、自動車の利用が前提で国道148号沿線に立地している状況であるとの記述があるが、旧街道からの話でありバスを始めとする公共交通も存在しており自動車利用を前提としているわけではない。</p> <p>・また、中山間地の集落の考え方として、将来の集落の在り方としてどの様に集落同士をつなげていくのかを考える必要がある。また、積雪時の山中集落への往復は安全面やタイヤの制約の面から考えて負担が大きい。そのため冬場のみ、一時的にまちなかに移住するなど対策として考えられる。</p> <p>・先ほどの説明にもあったように、白馬村は夏と冬で大きな繁忙シーズンがあり、交通事業者の方々の課題としても、冬と夏の交通需要ピーク時の対応であると考え。ナイトシャトルバスの運行により多少の混雑緩和が図られたところではあるが、繁忙期と閑散期の運行について運行内容を使い分けるような検討を重ねる必要がある。ピーク時とそうでない時の交通需要の差が大きい地域では、通年で一貫した運行体系ではなくフレキシブルな体系が望ましいと考える。八月の繁忙期については、学生は夏休みであるので通学と観光でバランスをとった運行なども考えられる。季節や時間帯などのピーク時を活用した運行体系を構築すると更に良くなると考える。</p>
委 員 長	<p>・交通事業者や索道会社からの意見はどうでしょう。</p>
福 島 委 員	<p>・冬については、車を持たない外国人観光客を中心にナイトシャトルバスやスキー場間のシャトルバスなどの乗車がとても多い。夏に関しては、7月8月に白馬アルプス花三昧というイベントを実施しており、シャトルバスの提供をしている。去年と比較すると、乗車数は半減してしまいシャトルバスの存続の在り方について検討しているところであり、料金設定や運行ルート、7月8月に限らず閑散期を含めたグリーンシーズン全体での観光バスの拡充などの意見が全体の意見として多く上がった。</p>

	<p>・閑散期や平日の稼働を埋めるには、更なる外国人観光客の呼び込みが必要となりそのためには閑散期においても公共交通の拡充は不可欠であるとの意見が多かった。</p>
井 藤 委 員	<p>・資料2の3ページ【各公共交通の問題点】について、既存の交通がバラバラに存在しておりその為わかりにくいとの表現があるが、別の交通事業であるためバラバラであるのはある種当たり前であると考え、またその為わかりにくい交通体系とはどのような因果関係があるのか、具体的にはどのような内容なのか、事業の認知度についてなのか、運行内容に関してなのかわかり辛い。具体的な部分までの深掘りをして検討をする必要がある。</p>
事 務 局	<p>・タクシーやバスなどの既存交通がバラバラに存在している、といった記述に関しては改めたい。趣旨としては、現在の路線バスは観光路線といったイメージが強く村民利用が極めて少ない状況のことであり、そのほかの各種バスについても村民の利用が少なく、村民にとっての公共交通が少なく確立されていないといった内容である。</p>
井 藤 委 員	<p>・分かりにくい交通体系については、具体的にはどのような内容なのか。</p>
事 務 局	<p>・主に交通機関同士の接続であったり、案内表示が分かりにくい点として挙げらる。</p>
鈴 木 委 員	<p>・資料2 12ページの初めから個別なテーマに沿っての議論も大事ではあると思うが、7ページから10ページの内容が重要であると考え。アンケートの結果が出てきた中で、全体の課題として何があるのかを検討をし、列挙された課題について、委員会として具体的に把握することが重要であると考え。</p>
委 員 長	<p>・都市概況の課題として他の意見が無いようでしたら、次の項目に移りたい。</p>
速 水 委 員	<p>・資料1 村民アンケート 問8では新たな交通整備希望の意見が多い中で、資料2 12ページでは新たな公共交通による移動交通手段確保の検討は難しいとの結論になっている。この結論に至った経緯が明確でなく、新たな交通手段については今後検討を進めていく必要があると考えているため、このようなネガティブな結論とするべきではないと考える。アンケートの結果等を尊重し個人の意見をより多く取り入れて検討を進めていきたい。</p>
高瀬アドバイザー	<p>・資料1 村民アンケートの集計内容がわかり辛い点がある。問8を始めとして、意向聴取したいターゲットが絞り辛いため、どのような属性の人がどのような回答をしているのかを把握できるようにまとめて欲しい。また、資料1の</p>

	<p>1 2 ページでは移動制約者以外の対応については言及されているが、移動制約者に対する対応は明記されていない。検討を進める中で、対象となるターゲットはどこにあたるのだろうか。</p>
事務局	<p>・村民全体をターゲットとして考えているが、村や事業者のできることとできないことを相談しながら検討を進めていきたいと考えている。アンケートについてもこれからクロス集計を精査していく予定である。</p>
委員長	<p>・すべての項目でクロス集計を行うのは難しいと思うが、どのような村民がどのような問題を抱えているのか、要望があるのかについて更に言及できるよう引き続き精査して欲しい。</p>
鈴木委員	<p>・資料2 1 2 ページにおいて、⑩⑪を対応が難しいと位置付けてしまうと、今後の議論に挙がらなくなってしまうのではないかと懸念している。議論として挙がるように仕分けの内容を「対策を実施しているが不十分」または「未対策で検討が必要」に変えるべきである。また、資料1 村民アンケート 問8でも、「新たな交通整備希望」が43%「デマンドタクシーについて」が30%となっており、自由意見からも同様の内容が村民の意向として挙がっている。また、送迎を行っている保護者からも負担に感じているという意見がとて多い中で路線バスの一部をスクールバスとして運行するなど柔軟な発想を持って検討する必要がある。</p> <p>・交通体系を検討する上でも機械的に現状を列挙するだけでは個別の検討になってしまう為、総合的な検討が望ましいと考える。決まった固定概念に囚われず、柔軟な運用を検討する必要がある。</p>
委員長	<p>・資料2 1 2 ページの⑩⑪においては⑫⑬や⑭⑮を検討することで触れられる内容であると考えられます。そのため「要望等はあるが対応は難しい」と仕分けするのは一貫性に欠けてしまいます。個人的な見解としては、⑩⑪はその他の個別の課題を検討する中で出る検討内容であるため課題として明記する必要はないと考える。</p>
事務局	<p>・事務局としても個別課題を検討した上で、⑩⑪のような内容の検討を行うものであると考えている。</p>
田代委員	<p>・小学生・中学生・高校生における送迎について、徒歩圏内に住む学生においては送迎ありきの検討ではなく、集団登下校などの徒歩による登下校を推奨するような環境整備の検討が必要であると考えている。</p> <p>・他の市町村での生活と比較すると、白馬村内における移動手段の割合は自家</p>

	<p>用車がとても多い。その理由として、他市町村は公共交通同士の連携が取れていたり、車の駐車場代が高いなどが挙げられる。アンケート集計結果を参考にすると、バスや電車等の乗り継ぎ利便性の向上を求める意見も多いのが分かる。新しい公共交通の導入には相応のコストがかかってしまう為、現存する資源を有効活用することで、観光客や住民にとってよりよい検討内容が生まれるのではないだろうか。</p>
委員 長	<p>・現存する資源として、ナイトシャトルバスがあり現在の運行形態は村民の利用も可能となっている。しかし、現状として村民の利用は少ない状態である。</p>
福島 委員	<p>・ナイトシャトルバスの利用客の傾向は、自家用車で来村している日本人観光客では無く、朝食のみの宿泊プランで長期間滞在の外国人観光客である。村民がナイトシャトルバスを利用しない理由として、外国人観光客の乗車が多く利用し辛いなどや、運行体系として住民が利用できないといった誤った情報を持っている意見があるため、そういった意識の改善等に努める必要があると考えている。</p>
事務 局	<p>・ナイトシャトルバスについて、住民の利用拡充のために駅を発着地点とした路線を増設したが、運行時間の関係や外国人観光客と子供を同乗させることに抵抗がある親も多くいたためと利用が少ない状況であった。</p>
福島 委員	<p>・この結果を受け当時の会議では、観光の為の交通と生活の為の交通は大きな違いがあるため、観光交通と生活交通を一緒の交通サービスで賄うのは難しいとの結論に至ったと記憶している。</p>
事務 局	<p>・乗合デマンドタクシーの充実について、土日運行を求める意見が多いなかで車両の取り回しや、運転手等の問題もあると思うので、タクシー事業者としてどのような考えをもっているか伺いたいと思う。</p>
風間 委員	<p>・事務局からの質問に答える前に質問させてほしい。</p> <p>・福島委員の言う様に、観光交通と生活交通は分ける必要がある。交通の分け方として、通学・福祉（デマンド型乗合タクシー）・生活の為の交通・観光のための交通といった具合に分けて考えないと難しいと考えるが、国交省としての見解を伺いたい。</p>
井藤 委員	<p>・本検討委員会において公共交通を考える上での対象は、村民全員であるとの話があったが、村民全員の中には学生や高齢者など様々な属性が存在しているため、各々に対して対策等の検討を行うべきであると考えている。</p> <p>・資料2 12ページの⑥⑩については、問題点・課題というより目的である</p>

<p>風 間 委 員</p>	<p>ように受け取れてしまうため、わかりにくくなっている点を改めて記述した方が良いと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学や観光等を別方向として検討していく中で、組み合わせて検討を行える分野も中にはあるかもしれないが、通学と福祉に関しては個別のテーマとして対策等を検討する必要がある。ナイトシャトルバスについては、外国人利用者が多い中で、個人的な利用経験があるが、圧倒されてしまい途中下車した経験がある。改善策次第では良い方向に向かうと考えている。 ・デマンド型乗合タクシーに関して、土日運行の要望が強くある中で問題となるのが、運転手の確保と車両の確保と管理についてである。すぐに対応の可否についての返答は難しいが、土日運行実走に向けて内部で検討を進めていく予定である。 ・車両の問題として、ジャンボタクシーは運転手含め10人しか乗車することができないため輸送量に限界がある。また、現行のサービス内容は戸口から戸口まで送迎するため、乗車地点の散らばりによっては一台では時間内に拾いきれず予備車を要請する事態となっている。オフシーズンであれば対応可能であるが、オンシーズンや週末となると観光客等の対応も増えるため対応が難しくなる。今シーズンからは、営業区域を北アルプス安曇野交通圏まで広げ安曇野のタクシー会社の協力を得る中で、需要に対応しようとしている状況である。
<p>鈴 木 委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客や通学等を個別に検討しそれぞれの交通体系を築く事は理想ではあるが、村としても事業者としてもできることは限られているためできる範囲での検討を行っていくことが重要であると考えている。スクールバスに関して、利用するしないに関わらず、選択肢として存在しないのはどうなのか。冬の時期自転車通学が難しい学生は車での送迎を必要としており、アンケートの結果からこういった要望は上がってきている。
<p>高 梨 委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と児童は分けて考えていくべきだと考えている。しかし、観光交通と生活交通に関しては、部分的に混ぜて考えられるのではないかと考えている。フランスのシャモニーでは、生活交通である路線バスの中にスキー場へのルートが混在しており料金体系も同一であった。 ・資料2 4ページに記載のある、【冬期にスキー場間で運行されているバス】の運行は自由に走らせている部分があり今後統合が図る必要があると考えている。その過程で住民利用を勘案できるのではないかと考えている。 ・富山市では、コンパクトシティの考え方に則った公共交通体系を構築している。我が村としても、可能な限り将来を見据えた都市計画の考え方を踏まえて交通体系を検討する必要があると考えている。
<p>委 員 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の議論では、どこにターゲットを絞るのかといった観点が重要であった。

<p>(各委員)</p> <p>事務局</p>	<p>村民全体を考える中で高齢者や学生といった属性をどこまで一体的に検討できるのか、観光交通と生活交通の線引きに関しての検討など様々な意見を頂くことができた。更に深掘りするためにも、アンケート集計結果についてどのような人がどのような問題を抱えているのかを把握できるよう精査してほしいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方向性としては、資料2 12ページの内容に沿って検討を進めていきたいが、問題ないか。 ・異議なし <p>・時間になりましたので、本日の議事は終了とさせていただきます。</p> <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回の検討委員会の開催は12月初旬を予定しています。 <p>7. 閉会</p>
-------------------------	--

以上